

2023年(令和5年)

4月例会

日時：4月15日(土)14時より

会場：Zoomによるオンライン開催

(対面での開催はありませんので、ご注意ください)

講師：コロンビア大学(博士研究員) 石田有紀

題目：田舎・狂気・青年

——「ふさぎの虫」およびドストエフスキー像をめぐる二葉亭四迷と
近代小説理念の形成——

司会：早稲田大学 源貴志

5月例会

日時：5月20日(土)14時より

会場：早稲田大学戸山キャンパスでの対面とオンラインのハイフレックス方式

講師：明治大学 関口裕昭

題目：多和田葉子における創作と翻訳の対位法

——パウル・ツェランの受容をめぐる——

司会：上智大学 小松原由理

INSIDE THIS ISSUE

1. 4月・5月例会案内、ハイブリッド開催案内
2. 例会会場案内
3. 例会要旨等
4. 東京支部短信

役員連絡会開催のお知らせ

2023年4月例会終了後、オンラインで開催します
(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、各種委員会委員長、事務局委員です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)。

第3回幹事会開催のお知らせ

5月例会終了後、幹事会をハイフレックス方式で
開催します(幹事会構成員は、幹事、支部部長、
事務局長、各種委員会委員長です)。

4 月 例 会 発 表 要 旨

田舎・狂気・青年

——「ふさぎの虫」およびドストエフスキー像をめぐる
二葉亭四迷と近代小説理念の形成——

コロンビア大学（博士研究員） 石田有紀

二葉亭四迷（1862/1864～1909年）の名は長く日本近代文学の理念と結び付けられてきた。この結びつきはどのように形成され、なにゆえ要請されたのであろうか。本発表では、特に日露戦争後から第二次世界大戦後までの期間を対象に、田舎・狂気・青年という概念をめぐる、二葉亭作品の解釈、二葉亭四迷という作家像および近代文学理念が形成されていくさまを考察する。その際、特に以下の併存する二つの側面に注目する。

一つは二葉亭四迷によるゴーリキー「Тоска」（1896年）の翻訳「ふさぎの虫」（1906年）のもたらした反響と、その作品解釈および「ふさぎの虫」という概念の変化である。この翻訳作品は発表当初より「ふさぎの虫」という翻訳題の選択や訳文中の「田舎言葉」使用により議論を呼んだが、同時代文学作品に頻出した狂気概念に結び付けられることにより、「田舎言葉」で描かれた48歳の主人公の心理は、「近代人」そして近代文学を生み出す必須概念を代表するものとして幅広く受容されることになる。同じく広範な反響を呼んだ二葉亭訳「血笑記」（1908年）の解釈の変化等との比較により、「ふさぎの虫」をめぐる形成された近代文学理念の特徴を明らかにしたい。

もう一つは1920年代以降の「私小説」をめぐる議論およびそれに関連した1930年代前後のドストエフスキー人気の再燃である。この時期のドストエフスキーは、プロレタリア文学を背景に都市中間層の文学として言及されるとともに、小林秀雄「故郷を失った文学」（1933年）での『未成年』（1875年）解釈に見られるように、「江戸っ児」「東京」「田舎」概念の間に惑う青年の文学としても注目されている。中村光夫「二葉亭四迷論」（1936年）を始めとする1930年代前後以降、戦後にかけての二葉亭に関する資料研究・議論は、同時代の私小説およびドストエフスキーに関連する言説とどのように関係し、どのような近代小説理念を形成しているのかを考察する。

5月例会発表要旨

多和田葉子における創作と翻訳の対位法 ——パウル・ツェランの受容をめぐる——

明治大学 関口裕昭

多和田葉子は、日本語とドイツ語の間を自在に往還しながら、二つの言語で独自の作品を発表している〈世界文学〉の旗手である。カフカやクライストと並んで、彼女に決定的な影響を与えたドイツ語圏の詩人がパウル・ツェラン (1920-1970) である。ツェラン生誕 100 年にあたる 2020 年には、その集大成ともいえる Paul Celan und der chinesische Engel(邦訳『パウル・ツェランと中国の天使』) がドイツ語で発表され、コロナ禍のベルリンを舞台にしたこの小説は、巧みな引用の手法や斬新な言語実験などから話題となった。

本発表では、まず多和田のツェラン・エッセイをいくつか紹介し、受容の変遷を年代順に概観する。そして多和田がツェランの日本語訳に、従来とは別の翻訳の意味を発見したことを確認する。次に本小説を日本語に翻訳した経験をふまえながら、ツェランの詩的言語が多和田文学の形成にどのような触媒的役割を果たしたのかを具体的に考察する。

現在、多和田の研究は世界的な規模で広がっているが、当然ながらヨーロッパではドイツ語で書かれた作品が、日本では日本語作品が中心となる。また、多和田は小説のほかに詩や戯曲も精力的に書いているが、研究の大半は小説である。さらにカフカや自作の小説を、ドイツ語から日本語に、あるいはその逆に翻訳したりしているが、その背景と意図に関して十分な考察はまだなされていない。

本発表では『パウル・ツェランと中国の天使』の核心にある、二つの言語とジャンル(詩と小説)の中間領域深くに踏み入り、その文学的たくらみを創作と翻訳が互いに反響しながら形成されていく一種の「対位法」的な文学ととらえる。こうして多和田の標榜する「エクソフォニー」の文学を、新しい視点から浮かび上がらせたいと考えている。

5月例会 対面開催会場案内

会場に使用する部屋については、4月の授業開始後に確定されますので、5月初旬にあらためて部屋番号等の詳細をお知らせいたします。



東京支部短信

第61回東京支部大会開催日・開催方法のお知らせ

第61回東京支部大会は10月28日(土)に日本女子大学日白キャンパスで開催される予定です。研究発表はすべて対面での開催となります(その他のイベントについてはハイフレックス開催の可能性を検討中です。詳細が決まり次第お知らせします。)

第61回東京支部大会研究発表者募集

2023年10月28日(土)に第61回東京支部大会が日本女子大学で開催されます(研究発表はすべて対面方式)。研究発表を希望される方は、氏名、住所・連絡先(電子メールアドレス)、所属、発表題目、400~600字程度の発表要旨をメール添付で、6月10日(土)必着で事務局(minamoto@waseda.jp)までお送りください。発表時間は25分、質疑応答が10分です。申し込み受付の返信をお送りしますので、ご確認ください。なお、感染症拡大等の状況によっては開催方法に変更が行なわれる可能性がありますので、ご確認ください。

当面の例会運営に関するお知らせ

- ① [4月例会のオンライン開催について] 4月例会はオンラインでの開催となりますので、1週間前に支部会員向け一斉メールで、開催内容(ホームページ掲載と同様)とともに、当日Zoomに入室するためのURLを送付します。その際、ホームページにも、会員に入室用URLを送付した旨を掲載しますので、メール不着の場合は事務局にご連絡ください。Zoomへの入室は、メールで送付された入室用URLをクリックすれば可能です。当日の参加に際しては、発表中はカメラ・音声をオフにさせていただきます。
- ② [5月例会のハイフレックス開催について] 5月の例会は、1月・3月の例会と同様に、オンライン開催を基本としながらも、**参加者の来場可能な会場**を設けます。会場は早稲田大学戸山キャンパス(文学学術院 別図参照)を予定しています。5月例会については、いまのところ、申込制とする予定はありません。
- ③ 例会開催の概要は、年4回に分けてホームページに情報を掲載する予定です。3月末に4月・5月分の、6月末に7月・9月分、10月末に11月・12月分、さらに12月末には翌年1月、3月分の例会情報(日時、発表者名および題目・要旨)を掲載します。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局(hikakubungakutokyo@gmail.com)に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。発表者の資料については、ハイフレックス開催に備えて、Zoom上で画面共有できるものについても用意していただくこととなります。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員みなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト(<https://www.hikakutokyo.com/mm>)のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニューズレター 138号

発行人：佐藤 宗子

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：鈴木 美穂 堀江 秀史 安元 隆子 庄子 ひとみ

事務局

事務局長：源 貴志 会計担当：南平 かおり

事務局委員：川野 礼音 小泉 泉 土田 久美子

芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒162-8644

東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学 文学学院

源 貴志研究室

TEL：03-5286-3725